

一般国道160号水見バイパス
埋蔵文化財試掘調査報告Ⅱ

1991年3月

水見市教育委員会

一般国道160号水見バイパス
埋蔵文化財試掘調査報告Ⅱ

1991年3月

水見市教育委員会

例　　言

1. 本書は、一般国道160号水見バイパス建設工事に先立つ埋蔵文化財試掘調査のうち、平成2年度におこなった、富山県水見市阿尾島尾所在の阿尾島尾A遺跡、同字島田所在の阿尾島田A遺跡及び同向田所在の阿尾瀬戸ヶ谷内遺跡の報告である。

2. 調査は、建設省北陸地方建設局富山工事事務所の委託を受けて、水見市教育委員会がおこなった。

3. 調査事務局は、水見市教育委員会社会教育課に置き、課長代理 烏勝彦・主任 坊美代子・主事 浦勇仁が調査業務を担当し、課長 曽根芳明が総括した。

4. 調査は、水見市立博物館学芸員（社会教育課兼務）大野究が担当した。

5. 本書の編集・執筆は、大野が担当した。

6. 出土遺物は、水見市立博物館が保管している。

7. 調査および本書の作成にあたって、以下の方々や機関から協力を受けた。記して感謝申し上げる（順不同・敬称略）。

湊　長・橋本芳雄・松島　洋（水見市文化財審議委員）、鈴木瑞治・小堀卓治（水見市立博物館）、富山県埋蔵文化財センター、建設省富山工事事務所、水見工業㈱

調査参加者：曾田富美子・沢井きみ・伊藤美治・小島信義・鳴峰子・坂口愛子・田中すみ・三崎きみ・松原秀子・山本ヨシエ・戸田久美子・栗正次・中村哲夫・荒光藤一・松沢次吉・向春子・鳥内好三・高一男・栗未子・島田伊次郎・中村かず子・船山久枝・船山かず・坂田かずい・中村みす江・中村よつゑ・栗一枝・中村すみ子・松尾修・坂田武雄
整理参加者：鈴木瑞慶・三矢忠京・伊藤文代・宮川幸子・大畠京子

目　　次

第1章　調査に至る経緯とその経過	1	第4図　阿尾島III A 遺跡層位模式図	8
第2章　遺跡の環境	2	第5図　試掘調査区(1)	9
第1節　遺跡の地理的環境	2	第6図　試掘調査区(2)	11
第2節　遺跡の歴史的環境	4	第7図　遺物実測図(1)	12
第3章　阿尾島尾A 遺跡	7	第8図　遺物実測図(2)	13

第1節　調査の概要	7	写真目次	
第2節　層位	7	写真1	遺跡周辺空中写真
第3節　遺物	7	写真2	遺跡周辺空中写真
第4章　阿尾島田A 遺跡	7	写真3	調査風景
第1節　調査の概要	7	写真4	調査風景
第2節　層位	7	写真5	調査風景
第3節　遺物	8	写真6	調査風景
第5章　阿尾瀬戸ヶ谷内遺跡	8	写真7	阿尾島尾A 遺跡
第1節　調査の概要	8	写真8	阿尾島田A 遺跡
第2節　層位	8	写真9	阿尾瀬戸ヶ谷内遺跡
第6章　阿尾島III A 遺跡採集の遺物	8	写真10	出土遺物(1)
第7章　まとめ	14	写真11	出土遺物(2)

挿図目次

第1図　周辺の遺跡	3	写真13	阿尾島田A 遺跡採集の遺物(1)
第2図　水見バイパス遺跡群	5	写真14	阿尾島田A 遺跡採集の遺物(2)
第3図　阿尾島尾A 遺跡層位模式図	7	写真15	阿尾島田A 遺跡採集の遺物(3)

第1章 調査に至る経緯とその経過

海岸線をほぼ沿うようにして、氷見市を南北に縦断する一般国道160号は、氷見市にとって経済・観光上の重要なルートである。しかしながら、従来の路線は2車線と幅が狭く、増加する交通量に対処できなくなってきたため、新たなバイパス路線の建設が計画された。

氷見バイパス（4車線）は現在氷見市福積まで一部暫定2車線で供用が開始されているが、残りの福積～藪田間の予定路線内に、周知の遺跡が含まれており、埋蔵文化財の保護について開発側との調整が必要となった。

昭和58年発行の『氷見市遺跡地図』では、バイパス予定路線内に3ヵ所の遺跡が含まれている。氷見市教育委員会では事業地周辺の埋蔵文化財の状況をより正確に把握するために、昭和61年度と昭和63年度に、路線を中心とした埋蔵文化財分布調査をおこなった。

昭和61年度

対象地区：福積地内

調査期間：昭和61年7月16・17日（2日間）

調査担当：岡本恭一（氷見市立博物館学芸員・社会教育課兼務）

昭和63年度

対象地区：阿尾・藪田地内

調査期間：平成元年2月7・8・14・15日（4日間）

調査担当：人野 究（氷見市立博物館学芸員・社会教育課兼務）

この結果、従来の3遺跡に加えて、新たに3ヵ所の遺跡を発見した。また近接の1遺跡の範囲が予定路線内に広がると推測した（第2図）。

これを受け、現状では詳しい範囲・性格を把握できない平野部の4ヵ所の遺跡のうち、阿尾島尾A遺跡・阿尾島尾B遺跡について、平成元年度に試掘調査をおこなった。

今年度は、残りの阿尾島尾A遺跡・阿尾瀬戸ヶ谷内遺跡と、阿尾島尾A遺跡のうち先年度に調査できなかった地区的3ヵ所について、試掘調査をおこなった。

試掘調査は、平成3年1月28日～2月12日の延べ8日間、機械と人力によりおこなった。

なお今年度は、この他に阿尾島尾A遺跡4,600m²のうち1,700m²の本調査と、残り一部600m²の包含層発掘調査をおこなった。阿尾島尾A遺跡は氷年度で本調査を終了し、今年度の成果と合わせて報告書を刊行する予定である。

第2章 遺跡の環境

第1節 遺跡の地理的環境

水見市は富山県の北西部に位置し、能登半島の基部東側にあたる。市域は、市の南北方面にそびえる標高637mの宝達山を起点として、北東方面にのびる宝達丘陵と、東方面にのびる二上丘陵の、二つの丘陵にとり囲まれた一帯である。宝達丘陵は、水見市と石川県との境界線をなしながら石動山に至り、これより石動山丘陵となって崎山半島を走り、海岸線に達している。一方二上丘陵は、水見市と西礪波郡福岡町・高岡市との境界線をなして、次第に低くなりながら海老坂峠に達し、ここからは標高が高くなり、二上山ブロックとなって、その先端は海岸に急斜している。水見市は、これらの丘陵から派出する小丘陵により、西条・十三谷・上庄谷・余川谷・八代谷・瀬浦の6つの区域に分けられている。また市の東側は富山湾に面し、約20kmの海岸線の、北半分は断崖、南半分は砂丘である。

阿尾島尾A遺跡は、八代谷を流れる阿尾川の下流右岸に所在し、海岸線から約300mの地点に位置する。阿尾川は石動山西側の荒山岬近くに発し、約11kmで富山湾に注ぐ、水見市の主要河川のひとつである。

遺跡の南東には、阿尾城山と呼ばれる標高40m前後の独立丘陵が海に面しており、この丘陵の地質は新第三紀鮮新世水見累層蔵田シルト層である。また、ここから国道160号をはさんで八代谷と余川谷の境をなす丘陵がのがれており、この丘陵は蔵田シルト層下位の泥岩層から成っている。阿尾島尾A遺跡は、当初阿尾川の沖積地に立地すると考えていたが、今年度の本調査の成果から、繩文海進以後の海退に起因する砂丘上に所在することが、明らかになった。同様の砂丘は、水見市南部の崖・柳田・島尾地区の通称松田江浜が有名である。

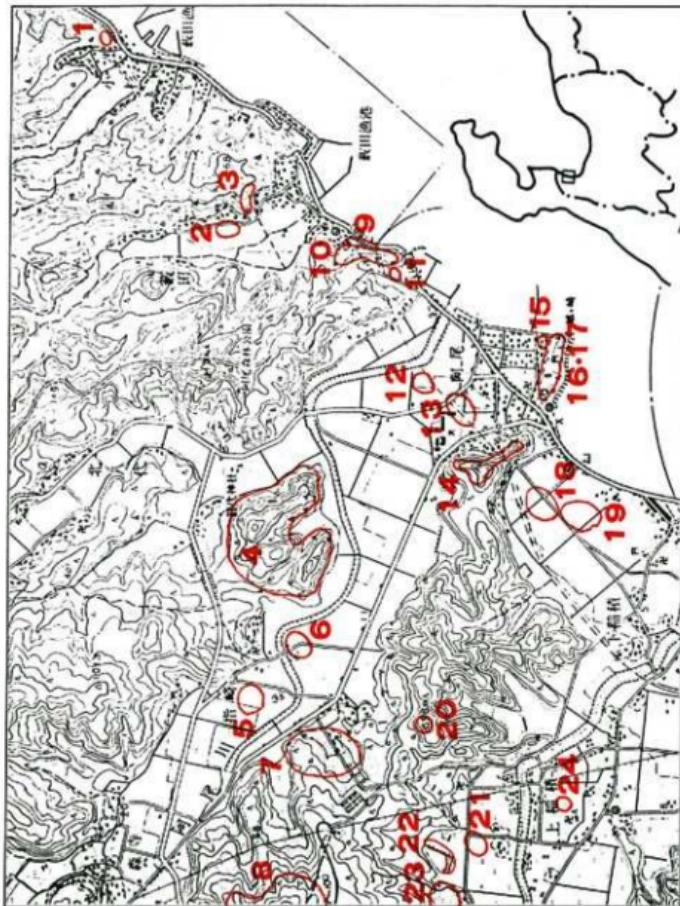
松田江の砂丘は砂嘴の役目を果たして、内陸部に潟湖が形成されたが、阿尾地区の砂丘は周囲の地形から推測して、小規模なものであろう。この砂丘層は、阿尾城山北側の集落ほぼ中央に所在する阿尾漁村センター建設前のボーリング調査でも確認されているのに対して、昨年度試掘調査をおこなった阿尾島尾B遺跡では確認されなかった。従ってその範囲は、城山から阿尾川までの、現在の集落の範囲とほぼ一致すると推測したい。これらのことから阿尾島尾A遺跡はこの砂丘の西北端に位置すると思われる。遺跡は標高約5mを測り、現在は宅地・水田として利用されている。

阿尾島田A遺跡は、阿尾島尾A遺跡の南西約500mに所在する。遺跡の北東から西にかけて、八代谷と余川谷の境をなす丘陵が広がり、南東は約400mの距離をおいて海岸線である。また南には余川川が流れている。

試掘調査の結果、砂層に遺構が確認できたため、阿尾島尾A遺跡と同じく海岸沿いに発達した低い砂丘地に立地するものと考えられる。遺跡は標高約4mを測り、現在は水田として利用されている。

阿尾瀬戸ヶ谷内遺跡は、阿尾島尾A遺跡の北東約600mに所在する。阿尾川河口北側の小さ

- 1 治洞穴（縄文）
- 2 緑田遺跡（縄文－奈良・平安）
- 3 緑田豪筋櫛穴群・中世墓（古墳・中世）
- 4 八代城跡（中世）
- 5 指崎五反田遺跡（奈良・平安）
- 6 指崎瀬訪野遺跡（中世）
- 7 指崎向山古墳群（古墳）
- 8 浦老城跡（中世）
- 9 阿尾瀬戸ヶ谷内櫛穴群（古墳）
- 10 山崎城跡（中世）
- 11 阿尾瀬戸ヶ谷内遺跡（縄文・中世・近世）
- 12 阿尾島尾B遺跡（縄文・古代・近世）
- 13 阿尾島尾A遺跡（縄文・古代・中世・近世）
- 14 三角山城跡（中世）
- 15 阿尾遺跡（弥生末～古墳初）
- 16 阿尾城山櫛穴群（古墳）
- 17 阿尾城跡（弥生末～古墳初・中世）
- 18 阿尾島田A遺跡（縄文・古代・中世）
- 19 阿尾島田B遺跡（中世）
- 20 城ヶ峯（城防伝承地）
- 21 相模西ヶ谷内遺跡（古墳・古代）
- 22 相模後池遺跡（縄文・古代）
- 23 余川鶴ヶ谷内遺跡（奈良・平安）
- 24 相模前田遺跡（縄文・古墳・古代）



第1図 周辺の遺跡（縮尺 1 / 25,000）

な谷の谷口に位置し、標高は約6mを測る。現在は畠地として利用されている。

第2節 遺跡の歴史的環境

周辺の遺跡として、まず縄文時代では泊洞穴遺跡と稻積後池遺跡があげられる。泊洞穴からは縄文早・前期頃と推定される人骨が出土し、稻積後池遺跡では縄文前期前葉の土器片が採集されている。

次に弥生時代終末期から古墳時代初めにかけては、阿尾城跡と城跡北側の畠地から土器が出土している。

古墳時代では、13基以上と推測する指崎向山古墳群が築造され、その後6世紀後半から7世紀にかけては、阿尾城山横穴群・阿尾瀬戸ケ谷内横穴群が営まれる。

古代では、阿尾島田A遺跡から須恵器・土師器が出土している。なお阿尾北側の北八代には延喜式内社の箭代神社が鎮座する。

中世では、阿尾城跡・山崎城跡・三角山砦跡などが築かれている。また阿尾島田B遺跡・指崎源訪野遺跡から中世の遺物が出土しているほか、阿尾川改修工事の折に数個の糸印が出土したという。

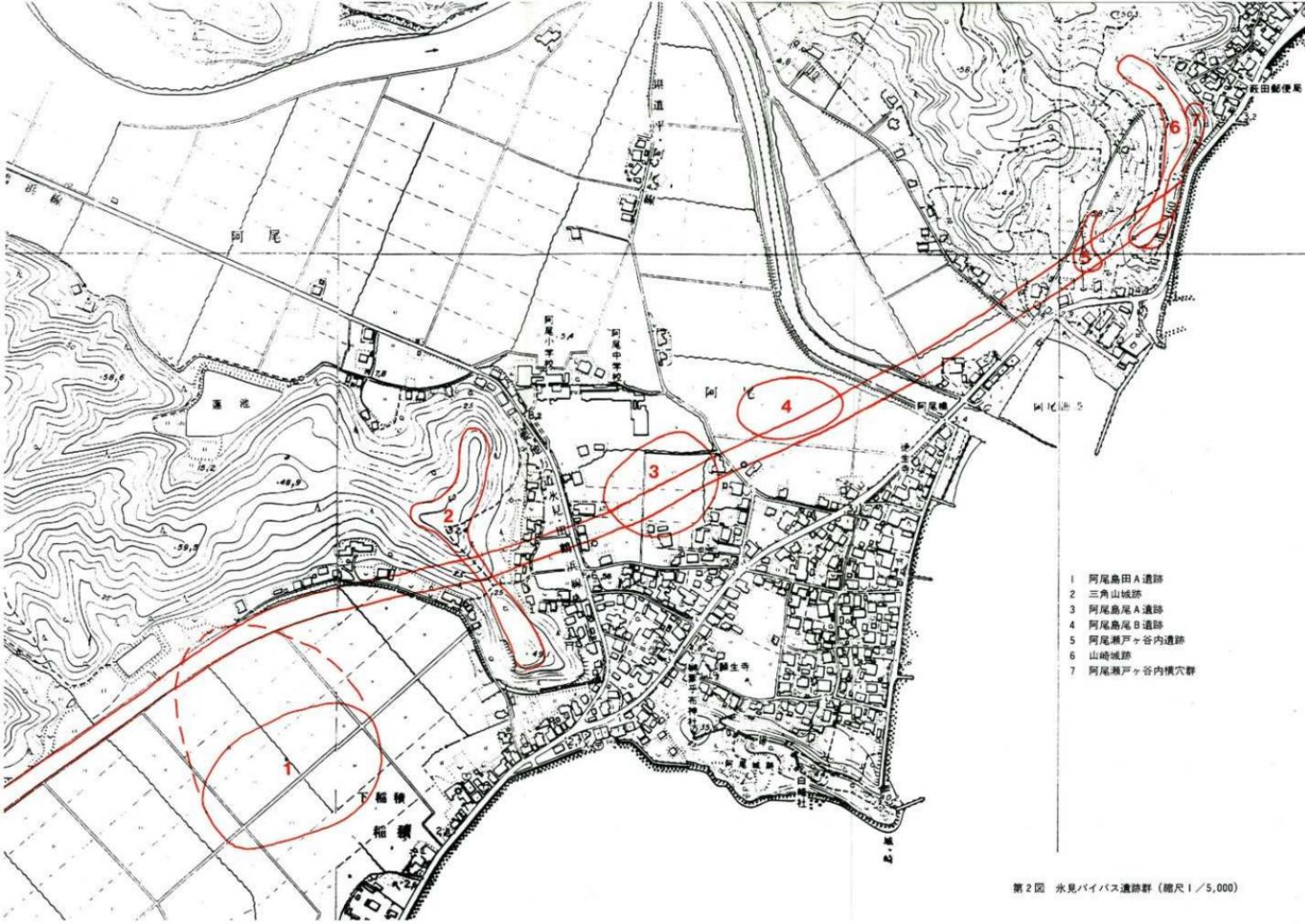
また、阿尾地区は古墳時代以後、特に中世では、海沿いに能登へ抜ける街道と、山伝いに荒山峠をこえて能登へ抜ける街道の分岐点にあたり、軍事・経済上の重要な拠点であったと思われる。

註

- 1 小片一保・加藤克知・六反田薫「富山県水見市泊洞穴から出土した人骨の形質について」『人類学雑誌』97号、1989年。
- 2 大野究「余川流域の遺跡資料」「水見市立博物館年報」第8号、1990年。
- 3 水見市教育委員会が平成元年度に試掘調査。未報告。
- 4 水見高校歴史クラブ「富山県水見地方考古学遺跡と遺物」1964年。
- 5 註4文献。
- 6 註4文献。
- 7 水見市史編修委員会「水見市史」1963年、727~728ページ。

参考文献

- 水見高校歴史クラブ「故郷の城社」1961年
水見市史編修委員会「水見市史」1963年
高岡徹・久保尚文「富山県」「日本城郭大系」第7巻 1980年
水見市立博物館・水見市教育委員会「水見市遺跡地図」1983年
水見市教育委員会「一般国道160号水見バイパス埋蔵文化財試掘調査報告Ⅰ」1990年



第2図 水見バイパス遺跡群（縮尺1/5,000）

第3章 阿尾島尾A遺跡

第1節 調査の概要

試掘調査は、昨年度調査のできなかった約4,000m²の地区を対象に、幅2mのトレンチを現地の地形に応じて15~50mの長さで8ヶ所設け、機械と人力で発掘をおこなった。発掘面積は合わせて約470m²である。

また対象とする深さは、地山までとしたが、遺構を確認した地点では、遺構上面までとし、遺構の発掘はおこなわなかった。さらに地山層の確認のため、遺構のない地点で隨時地下約4mまで掘り下げた。

第2節 層位

調査区の層位は、第1層が10~20cmの黒色表土（耕作土）、第2層が30~45cmの暗褐色粘質土であり、第3層が黄褐色砂質土、第4層が青色粘土地山である。

遺跡一部はは場整備の時に攪乱されたため、第1・2層が遺物包含層である。遺構は第3層上面で溝と穴が確認できた。

第3節 遺物

出土した遺物は、縄文時代の土器、古代の須恵器杯A・杯B・杯A蓋・杯B蓋・横瓶・瓶・甕など、古代の土師器杯・甕など、中世の珠洲壺・甕・鉢、近世の越中瀬戸・伊万里系磁器、その他の陶磁器であり、焼埋箱4箱分である。

遺物は設定した全トレンチから出土しているが、概していえば調査区の東側からの出土が多い。一方遺構も、本年度調査区のはば中央を横切る用水路から東側に集中し、用水路の西側では遺構基盤の砂層は確認されなかった。したがって遺跡は昨年度の試掘調査対象地区の西側約40mにまで広がり、バイパス建設に先立つ本調査総対象面積は4,600m²と確定した。

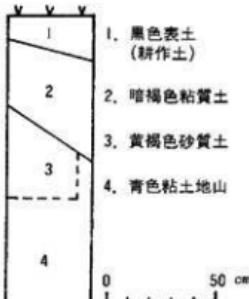
第4章 阿尾島田A遺跡

第1節 調査の概要

試掘調査は、バイパス予定路線の約14,000m²を対象に、幅2mのトレンチを現地の地形に応じて、12~94mの長さで14ヶ所設け、機械と人力で発掘をおこなった。発掘面積は合わせて約1,570m²である。

第2節 層位

調査区の層位は、第1層が20~30cmの灰褐色表土（耕作土）、第2層が10~30cmの黒色粘質土であり、第3層が遺構面の褐色又は黄色の砂質土である。まだ第3層の抜いている地区では礫混じり暗青色粘土層が地山である。



第3図
阿尾島尾A遺跡層位模式図

第3節 遺物

出土した遺物は、古代須恵器杯A・杯B・杯A蓋・杯B蓋・壺・土師器など、中世珠洲壺・壺・鉢などであり、整理箱3箱分である。

遺物が特に多く出土したのは、1・2・3・11・12・13の各トレンチであり、確認した遺構の範囲とほぼ一致する。したがってその範囲の2,520m²について本調査が必要であると判断した。

第5章 阿尾瀬戸ヶ谷内遺跡

第1節 調査の概要

試掘調査は、バイパス予定路線のうち用地買収の終了した約300mを対象に、幅2mのトレンチを現地の地形に応じて1ヵ所設け、機械で発掘をおこなった。発掘面積は20m²である。

第2節 層位

試掘調査と地元の人への聞き取りにより、遺跡には約2mの地盛りがされていることが判明した。分布調査で採集した遺物は、この地盛り土から採集したものと考えられ、その下の旧表土、及び青色粘土層からは遺物が出土しなかった。したがって本遺跡は二次的散布地であり、遺物の量も極めて少ないとから、本調査の対象から除外することにした。

第6章 阿尾島田A遺跡採集の遺物（第6・7図）

ここに紹介する資料は、阿尾島田A遺跡で過去に採集された遺物である。同遺跡の本調査を今後おこなうにあたり、遺跡の時代・性格等を把握しておくために、試掘調査結果と共に重要な資料であるため、ここに収録しておきたい。

遺物のほとんどは、は場整備工事中の昭和49年2月25日・4月14日に、児島清文氏によって採集されたものであり、本遺跡発見のきっかけとなった遺物である。

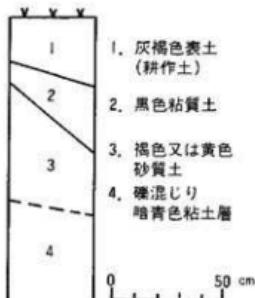
遺物は古代須恵器の杯B蓋・杯B・杯A・瓶・横瓶・双耳瓶・壺、古代土師器の壺・甕、中世珠洲の壺・甕、近世越中瀬戸の灯火器の整理箱2箱分であり、このうち25点を図示した。

1・2は須恵器杯B蓋である。共に口縁部のみの破片であり、口径は18cmを測る。1の口縁端部は軽く折り曲げ、2は逆三角形の断面を呈す。1の焼成はやや甘い。

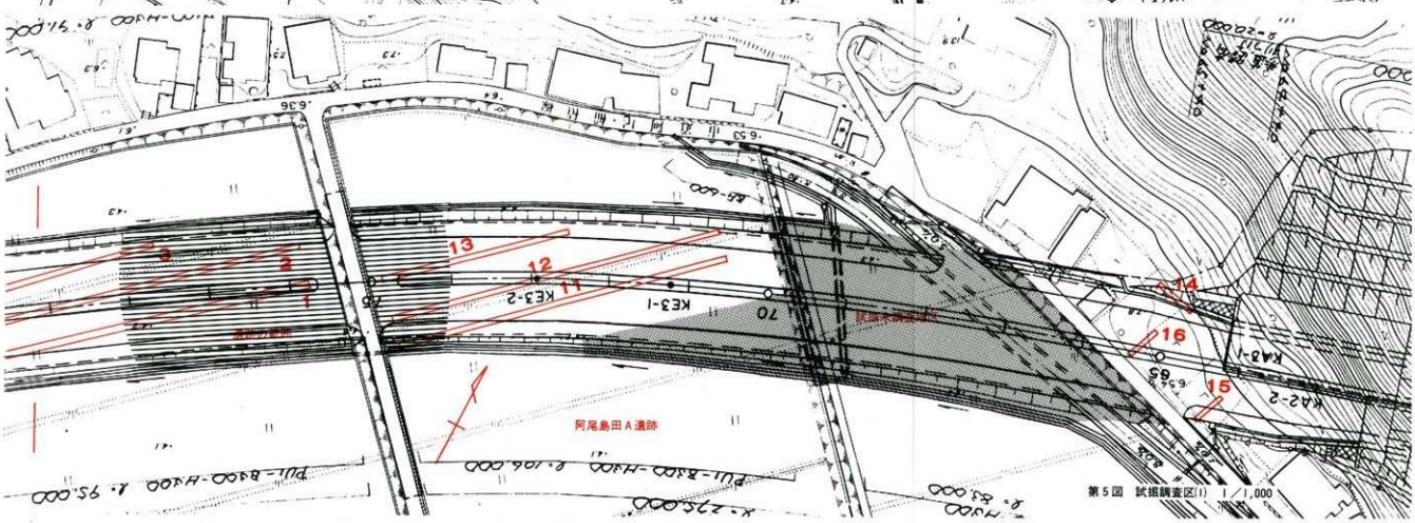
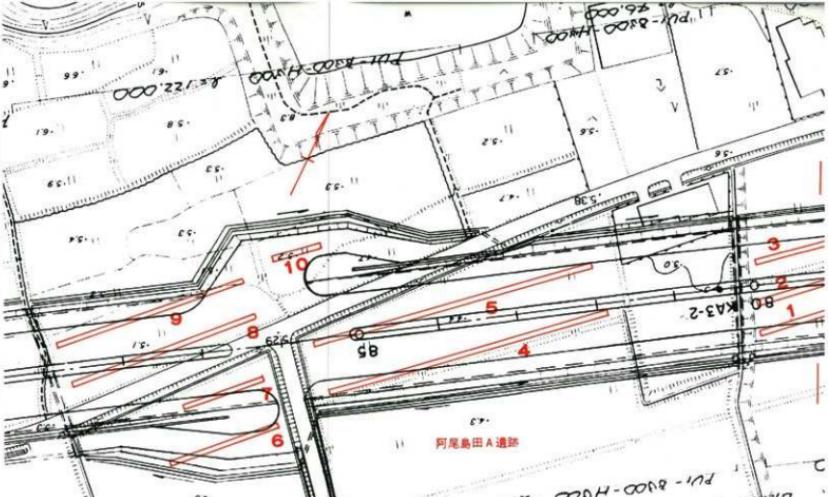
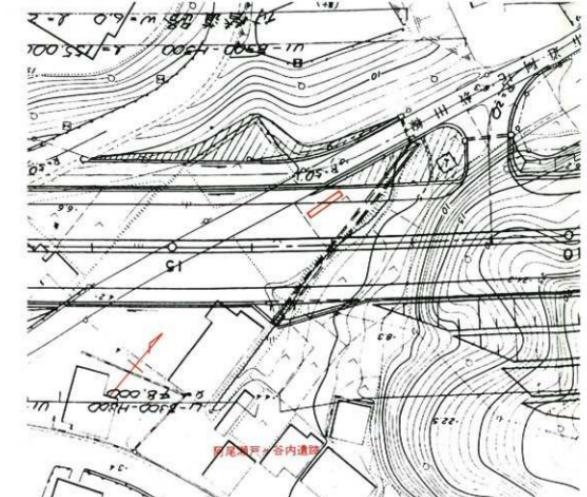
3は須恵器壺である。口径13.4cmを測り、体部外面下半は左方向に回転窓削りを施す。

4は須恵器杯Bである。底部のみの破片であり、底径8.2cmを測る。底部外面は窓切り未調整である。

5・6は須恵器杯Aである。5は底径8.8cm、6は底径12.0cmを測る。共に底部外面は窓切

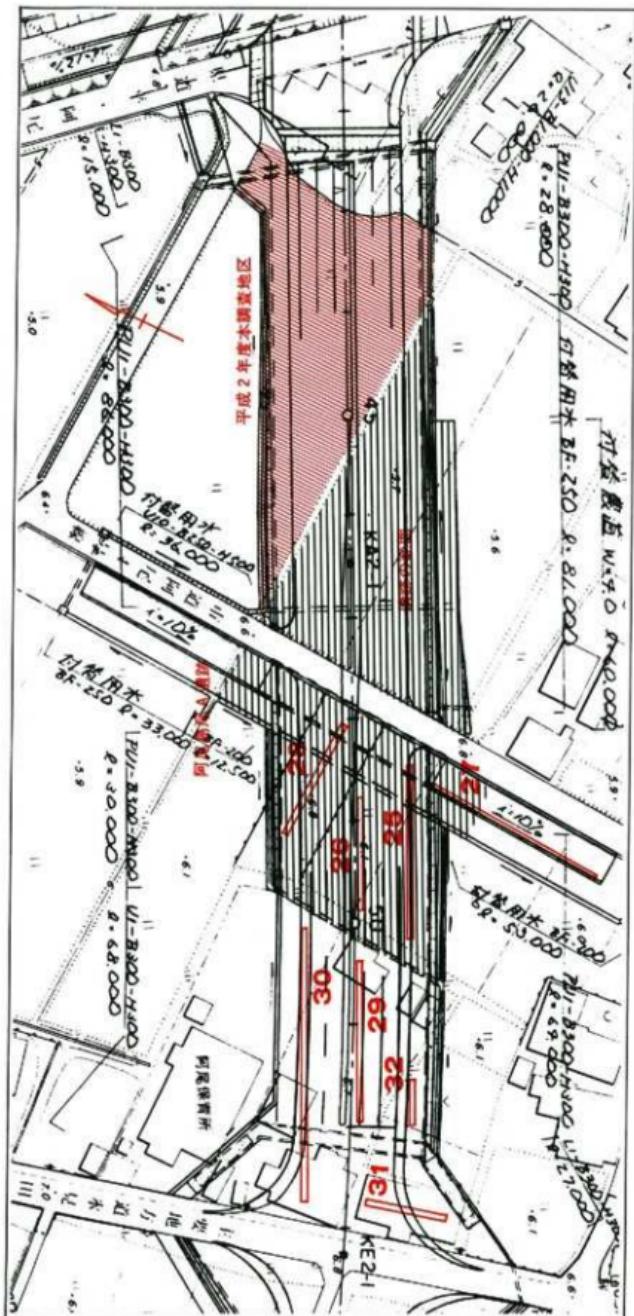


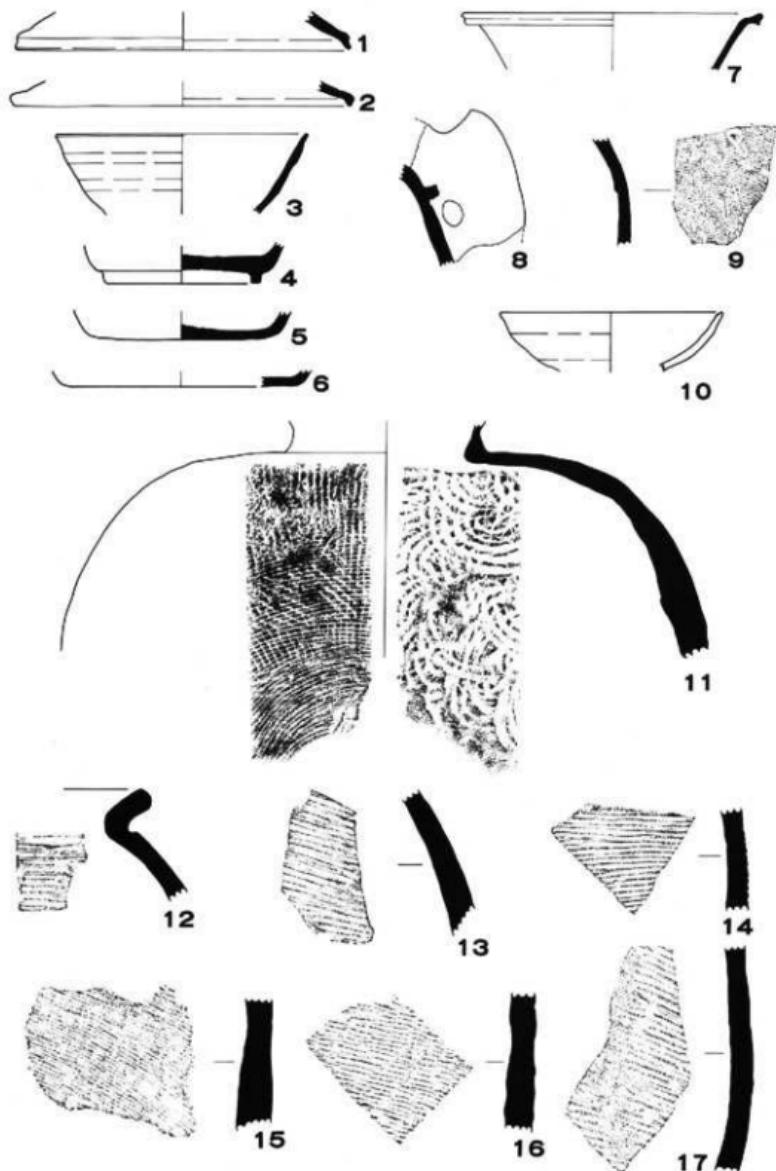
第4図
阿尾島田A遺跡層位模式図



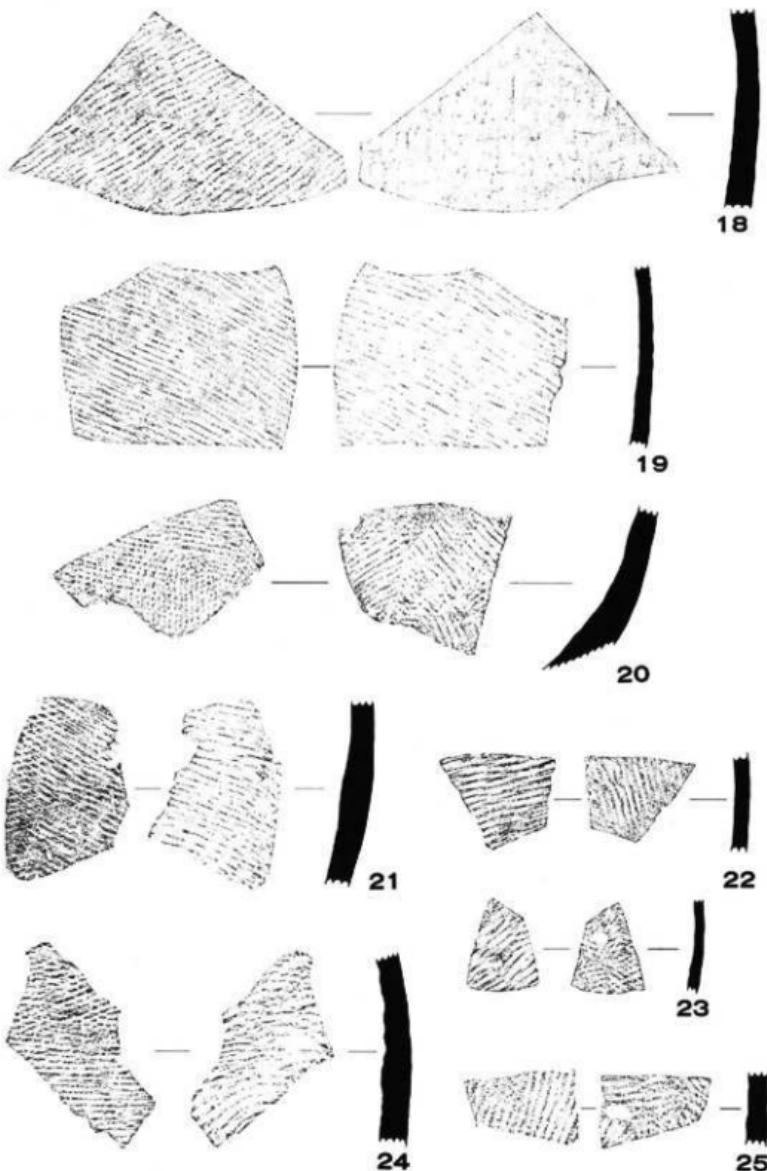
第5回 試掘調査区(1) 1 / 1,000

第6図 評価調査区(2) 1 / 1,000





第7図 遺物実測図(1)



第8図 遺物実測図(2)

り未調整である。5は焼成がやや甘い。

7は須恵器双耳瓶の口縁部であり、口径16.0cmを測る。口縁を外方に折り曲げ、端部に強い撫でを加える。内外面に灰色の自然釉がかかる。

8は須恵器双耳瓶の肩部と耳である。肩部に1条の凸帯をめぐらせる。

9は須恵器横瓶である。

10は土師器椀である。口径12.0cmを測り、色調は赤灰色を呈する。

11は須恵器横瓶である。外面は平行叩きとカキ目調整であり、内面は同心円文である。外面一部に灰色の自然釉がかかる。

12は珠洲壺の口縁部であり、13～17は珠洲壺・甕の胴部である。

18～25は須恵器甕胴部のうち、特徴的な叩き目を残すものである。18は外面が平行叩き、内面は格子文の当て具を用いる。19～22は内外面とも平行叩きを施す。23の内面は八型に刻んだ当て具を用いている。24の内面は同心円文、25の内面は放射線文である。

阿尾島田A遺跡採集の古代須恵器は、8～9世紀の資料である。

第7章　まとめ

昨年度と今年度の試掘調査の結果、永見バイパス遺跡群の7ヵ所の遺跡のうち、5ヵ所の遺跡について本調査をおこなうことになった。その面積は阿尾島尾A遺跡4,600m²、阿尾島田A遺跡2,520m²、三角山城跡900m²、山崎城跡7,000m²、阿尾瀬戸ヶ谷内横穴群推定100m²の、計15,120m²である。

本調査は、本年度すでに阿尾島尾A遺跡から着手しているが、永見バイパス遺跡群は永見市で初めての大規模な発掘調査となる。これらの遺跡は永見市の特に古代・中世の歴史を解明するうえで、貴重な資料を提供してくれるであろう。そのためにも一層調査の充実に努めたい。

なお、試掘調査の出土遺物については、昨年度と同じくそれぞれの遺跡の本調査の報告とあわせて観察・検討をおこなう予定である。

また阿尾島田A遺跡のうち、用地買収未了のため約3,500m²の地区が試掘未調査である。この地区については、用地買収終了後に改めて対処していきたい。



写真1 遺跡周辺空中写真（西から）

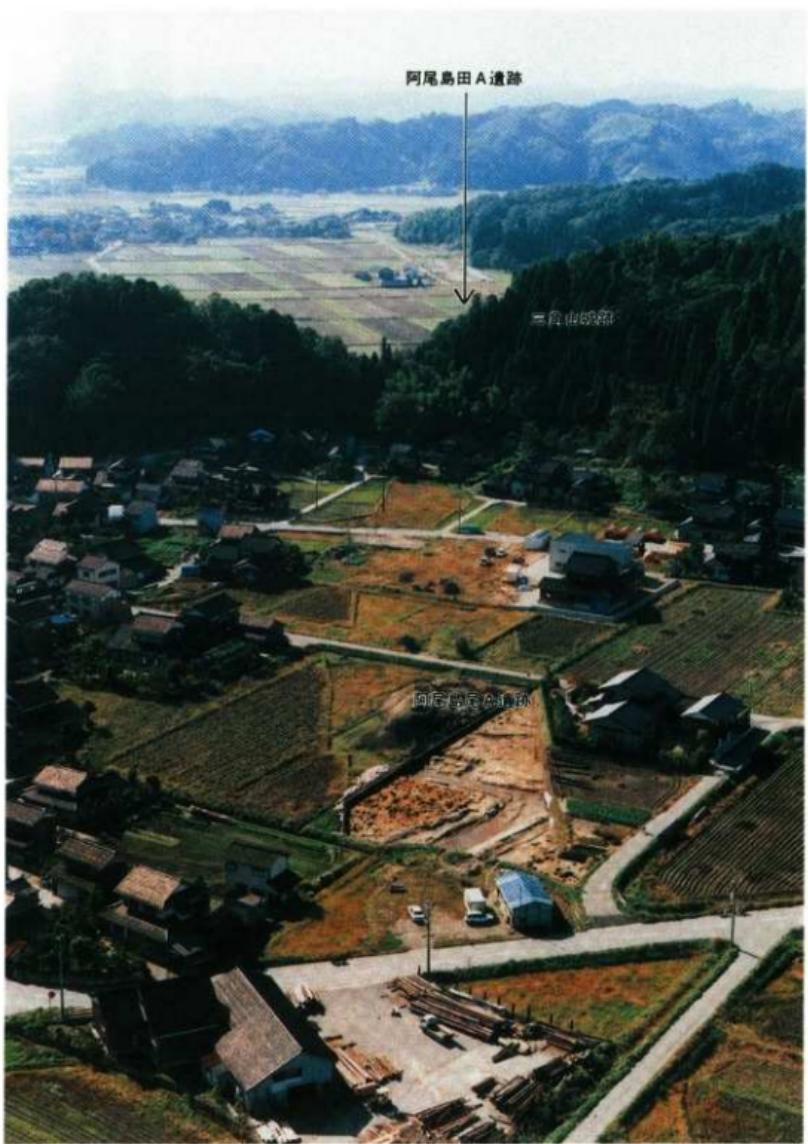


写真2 遺跡周辺空中写真（東から）



写真3 調査風景（阿尾島田A遺跡）

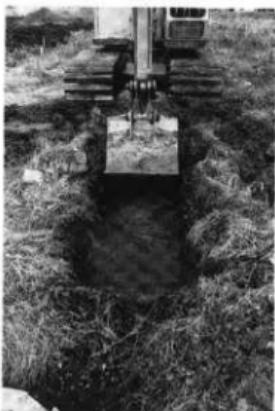


写真5 調査風景（阿尾島尾A遺跡）



写真4 調査風景（阿尾島田A遺跡）



写真6 調査風景（阿尾島尾A遺跡）



写真7 阿尾島尾A遺跡（西から）



写真8 阿尾島田A遺跡（北から）



写真9 阿尾瀬戸ヶ谷内遺跡（西から）



写真10 出土遺物(1) 阿尾島尾A遺跡

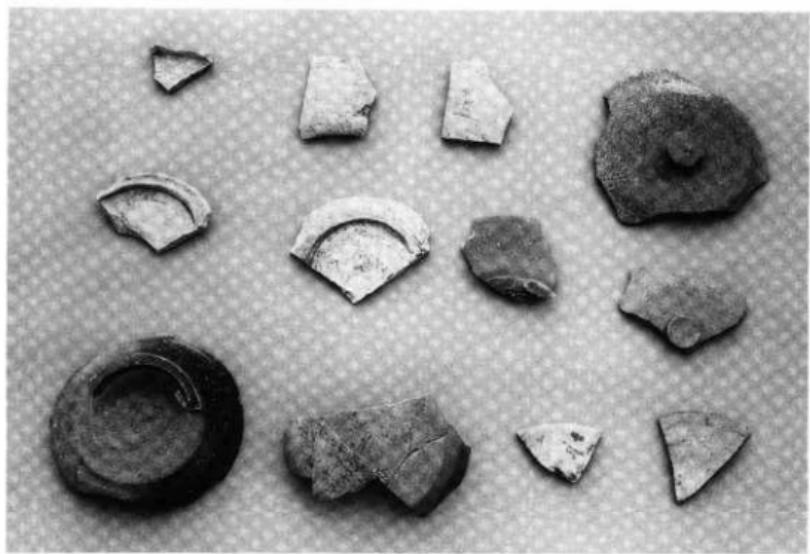


写真11 出土遺物(2) 阿尾島田A遺跡

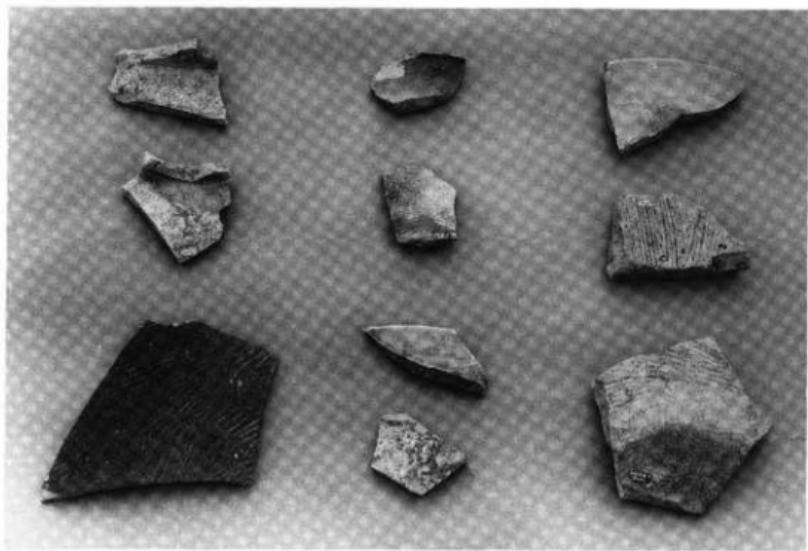


写真12 出土遺物 (3) 阿尾島田 A 遺跡

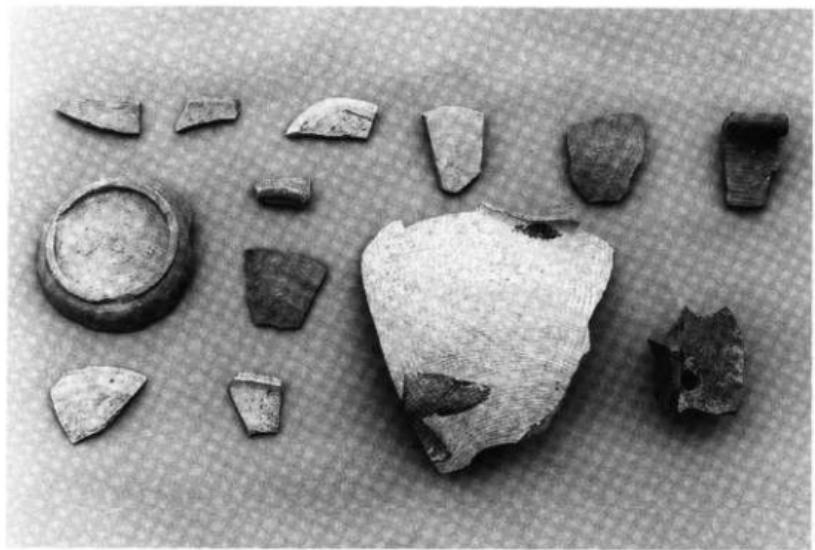


写真13 阿尾島田 A 遺跡採集の遺物 (1)

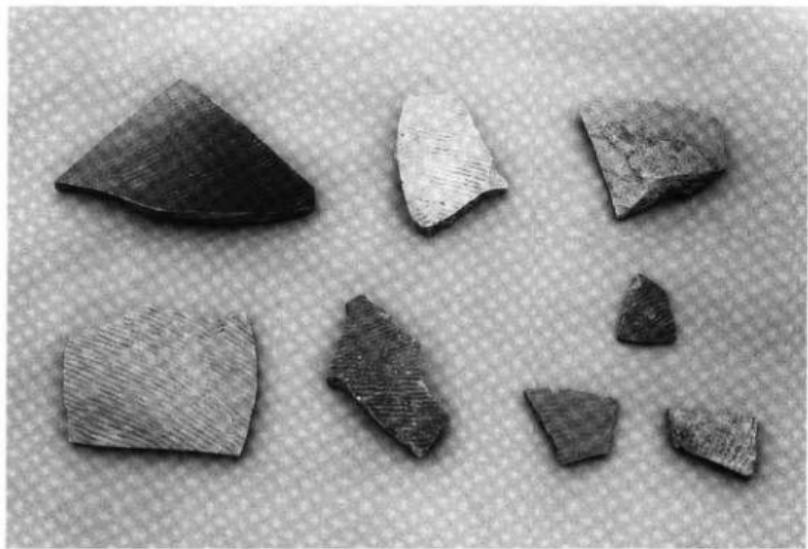


写真14 阿尾島田 A 遺跡採集の遺物 (2)

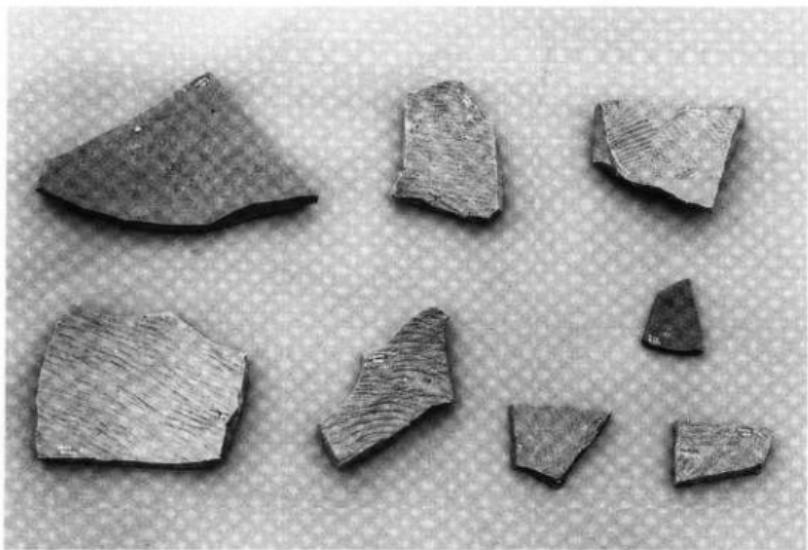


写真15 阿尾島田 A 遺跡採集の遺物 (3)

平成3年3月25日 印刷
平成3年3月30日 発行

一般国道160号水見バイパス
埋蔵文化財試掘調査報告 II

編集・発行 水見市教育委員会
〒935高山県水見市本町4-9
☎0766(74)8215

印 刷 小間印刷株式会社